被災地と共に大遠忌

親鸞聖人750回大遠忌法要は、聖人のご遺徳を偲び、お念仏のみ教えを受け止めて伝え広める機縁とするとともに、東日本大震災で被災された方の悲しみに寄り添い、思いを分かち合うことを願いとしてつとめている。法要中には参拝者から義援金が寄せられており、国内外からの多くの支援と合わせ、橘正信総長が岩手、宮城、福島の3県に1億円ずつを届けた。

東北3県に3億円届ける

義援金の総額5億円を超す

本山が募集している東日本大震災義援金は、全国の寺院・門信徒から多く寄せられており、5月27日現在で6093件、5億4244万6069円となった。

本山では第1次義援金として、東北現地本部に1億円、東京現地本部に1000万円、長野、国府教区の各災害対策委員会に100万円を届けているが、5月23日には、甚大な被害を受けた岩手、宮城、福島の3県を本山・緊急災害対策本部長の橘正信総長が訪ね、1億円と車いす20台ずつを届けた。

仙台市の宮城県庁では村井嘉浩知事と面会。全国の寺院などから被災者家族や生徒・児童の受け入れ希望が155件あることや、仙台別院（同市青葉区）に東北教区災害ボランティアセンターを開設し、延べ1800人が活動していることなど、宗門の支援活動を紹介。また、国内外から多くの支援が寄せられていることを話し、義援金を伝達した（写真）。

村井知事は「現在、宮城県では9100人がご遺体で発見され、5500人がまだ行方不明の状態。2カ月半たった今でも毎日、10人前後がご遺体で見つかっている。それだけ深刻な被害」と窮状を訴えた。

橘総長は「ビハーラ活動、NPO法人の京都自死・自殺相談センターの活動に参加している僧侶に、これからの支援活動への協力をお願いし、被災された方々の悲しみに寄り添い、思いを分かち合うことを願いとして、できる限りの支援を行いたい」と話した。

盛岡市の岩手県庁では達増拓也知事に義援金を伝達。福島県庁では、松本友作副知事に義援金を伝達した後、佐藤雄平知事と面会。佐藤知事は橘総長に「原発災害は現在進行中で先が見えない」などと苦しみを語った。また、NPO法人JIPPOの福島県の物産品を販売する支援活動について謝意を表し、復興に向けて長期的な支援を訴えた。

被災地では車いすが不足していることや、宿泊所を兼ねた支援の拠点が少ないことから、各知事は災害ボランティアセンターをいち早く開設したことなど、宗派の取り組みに感謝していた。